

新生会の将来へ向けて

理事長 瀧上 茂



早いもので、平成28年度も上期が経過し下期になりました。今年度は新生会の年度目標である、1.医療・介護の質の向上 2.地域包括ケアシステムの推進 3.診療体制の再構築と収益の向上 4.職場環境の整備と魅力ある職場づくり とともに「一部署一施策」を掲げ、各部署が重点目標を定め、3ヵ月ごとの達成度チェックを通じて、組織として新生会年度目標達成をフォローアップしています。下期も目標達成を目指して、取り組みが積極的に行われなければなりません。

また、新生会の中長期計画の重要作業として、2年前より行われている新生会組織の改組の為の申請準備を秋頃までには終え、県への申告を終了する予定であります。今後の組織の永続性、健全性を図ると同時に、国が進める地域医療構想、包括ケアシステム構築に着実に対応する為にも極めて重要な作業と考えています。

現在、豊後高田市も市行政および医師会等を中心として、包括ケアシステム構築作業が行われており、他の市や医師会に遜色ない立派なものが実現されるものと期待しております。新生会もその構築に積極的協力をおしまないものであります。

さて、この程、第29回ヨーロッパヘリコバクター・ピロリ(Hp)学会がドイツのマルデブルグにて開催され、小生も2年前のローマ開催出席に続いて、藤岡総院長に同伴させて頂きました。

同学会では、豊後高田市及び豊後高田市医師会、さらには大分大学消化器内科学教室の指導のもと取り組んでいる豊後高田ヘリコバクター・ピロリスタディの中間報告を同大学医局員の首藤充孝先生より報告して頂きました。この報告は、血清Hp抗体値の3.0~9.9 $\mu\text{g/ml}$ 内にある従来陰性と判断された閾値において、早期胃癌の発生が有意に存在するものを我々のスタディにて証明したものであり、今年度行われた消化器がん検診学会、及び第13回韓日合同ヘリコバクター会議にて優秀賞を頂いたものであります。

学会を挟んで、ベルリン、ポツダム、ライプチヒ、マイセン、ドレスデン等の観光も行い、改めてドイツの歴史の厚さ、そして偉大さに圧倒されると同時に、しばしのリラックスした時間を過ごさせて頂きました。

留守の間、先生方をはじめ、病院のスタッフ、更には患者様にご迷惑をおかけしました。皆様のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

最後にご報告ですが、本年3月より運営している市内のサテライトクリニックにおいて、10月より新しく院長が着任しました。地域医療へ更に貢献させて頂きたいと思っております。



学会発表場にて



ドイツ サンスーシー宮殿